



年頭所感

北海道知事 高橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。皆様とともに新しい年を迎えられましたことを、大変嬉しく思います。

思えば、本当に早いもので、私が北海道知事に就任してから三回目の新春を迎えました。この間、皆様には平素から道政各般にわたり、さまざまな形で深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

そして、今年は私にとって、就任四年目を迎える一つの節目の年となります。私自身、いま改めて初心に立ち返って今後の道政に取り組む決意を一層強くしているところであり、今後、私が目指す「新生北海道の創造」という夢の実現に向けて、新たな一歩を力強く踏み出してまいりたいと考えています。

さて、昨年を振り返りますと、知床の世界自然遺産の登録や北海道新幹線の着工といった長年の道民悲願の実現をはじめ、駒大苫小牧高校の夏の甲子園連覇や旭山動物園の躍進など、道民に夢と希望、そして北海道の自信を呼び起こさせる明るい出来事が続いた一年であったと実感しています。

また、これまで推進してきたさまざまな取組などを通じて、雇用面での改善や観光入込客数の回復、IT・バイオ産業の集積、あるいは食や観光の分野で新たな市場開拓やブランド化を目指す動きなど、北海道の明日につながる「活性化の芽」が次々と芽吹き始めているという私なりの手応えを感じています。

しかし、そうした将来に向けた確かな動きがあ

る一方で、総体的には本道経済を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況が続いており、今後、これまでの蓄積や土台を最大限に活かしながら、自立性の高い活力ある北海道の創造に向けた重点的な取組を一層加速させなければなりません。

そのためにも、時代の潮流の変化をしっかりと見極めつつ、戦略とスピード性を重視しながら、雇用の創出をはじめ地域産業力の向上や新産業・新事業の創出、北海道ブランドの強化といった「経済再建」に向けた取組を一層加速するとともに、未来を担う次世代の育成や豊かな自然環境の保全・継承、暮らしの安全・安心の確保、さらには地域の主体性が発揮できる北海道ならではの「地域主権」の取組などを一層力強く進めてまいりたいと考えております。

また現在、道財政は、かつてない未曾有の危機に直面していますが、子どもたちの未来のためにも、徹底した「行財政構造改革」を推し進め、知恵と力を結集し、職員一丸となってこの難局を乗り越えていく決意です。引き続き、道民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

北海道はいま、明治開拓期や戦後改革に匹敵する大きな転換期を迎えています。その歴史的な意義を踏まえ、残された任期、道民の皆様とのパートナーシップを深めながら、世界、そして未来を見据え、夢のある新生北海道を築き上げるために全力を尽くしてまいりたいと考えています。

本年が、輝かしい将来に向けた着実なる発展の年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。